

今回山形短観における主な判断、事業計画の動き (2021年12月調査)

1. 業況判断

12月調査では、製造業では「良い」超で横ばい、非製造業では「悪い」超で横ばいとなり、全産業では0と前回調査と同水準となった。因みに、前回調査では悪化、水準は▲5を予測していた。

製造業・・・はん用・生産用・業務用機械や輸送用機械が悪化したものの、化学が前回調査と同水準となったほか、電気機械が改善したため、全体では10と前回調査と同水準となった。前回調査では、水準は3を予測していた。

非製造業・・・卸・小売が悪化したものの、建設や宿泊・飲食・対個人サービスが改善したため、全体では▲8と前回調査と同水準となった。前回調査では、水準は▲10を予測していた。

先行き(2022年3月予測)は、製造業、非製造業とも悪化を予測しているため、全産業では▲6と▲6ポイントの悪化を予測。

2. 売上・収益計画

(1) 売上高

2021年度(計画)は、製造業は前年度比7.4%の増収、非製造業は同1.0%の増収となり、全産業では同4.4%の増収計画。

前回調査との比較では、非製造業(修正率0.4%)で上方修正されたものの、製造業(同▲1.1%)で下方修正されたため、全産業では▲0.4%の下方修正となった。

(2) 経常利益

2021年度(計画)は、非製造業は前年度比▲33.4%の減益となるものの、製造業は同46.5%の増益となり、全産業では同17.8%の増益計画。

前回調査との比較では、製造業(修正率▲7.8%)、非製造業(同▲7.5%)とも下方修正され、全産業では▲7.7%の下方修正となった。

3. 設備投資額（含む土地投資額）

2021年度（計画）は、製造業は前年度比 83.9%、非製造業は同 92.7%の増加となり、全産業では同 89.0%の大幅な増加計画。

前回調査との比較では、製造業（修正率 1.9%）、非製造業（同 4.8%）ともに上方修正され、全産業では 3.6%の上方修正となった。

4. 雇用

雇用人員判断・・・ 製造業では「不足」幅が縮小したものの、非製造業では「不足」超幅が拡大したため、全産業の「不足」超幅は▲22 と前回調査比やや拡大。先行き（2022年3月予測）の「不足」超幅は製造業中心に拡大を予測。

新卒採用計画（全産業）・・・2021年度は、大幅に増員を図った2020年度を僅かに上回る計画。一方、2022年度は前年を下回る計画。前回調査（6月調査）との比較では、2021年度（修正率 3.9%）、2022年度（同 2.5%）とも上方修正となった。

以 上